



2016.1.19 NO.1 (通算79号)

一般社団法人 自然科学書協会 | 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 | 神保町 101 ビル 1 階 | TEL 03-5577-6301 | <http://www.nspa.or.jp/>

謹賀新年

年頭にあたってのご挨拶

一般社団法人 自然科学書協会

理事長 金原 優



トは既に情報伝達には欠かせない手段であり、出版界もインターネットによるマインスばかり憂いていないでその効果を最大限に利用すべき立場にあります。自然科学系の専門書誌の発行と流通には電子配信は不可欠です。膨大な情報の中から読者が必要とする情報を瞬時に検索し提供するシステムを出版社が自ら構築し、必要かつ十分に市場に浸透させる出版業務を積極的に展開しなければ出版社としての目的が果たせません。

利用者の要望に応え、同時に出版社の利益も確保しながら出版の創造サイクルを継続させるためには、著作権の保護と利用・運用のルールを確立することが重要です。電子的な情報は瞬時に複製されネットで遠隔地に伝達されてしまいます。適正な著作権保護とその読者と市場に対する啓蒙活動と周知活動が重要です。

懸案であった消費税の軽減制度は当面食料品と宅配新聞のみということになりました。書籍と雑誌については継続検討ということになっていますが、今後の政府における対応と出版界内部における有害図書との線引きが重要課題です。自然科学系の専門書は日本の科学情報力を高めるためには必要不可欠なものであり、国民の食と同等に重要なものであることは言うまでもありません。医療費に対する消費税非課税問題も含め、自然科学書協会は日本の科学と国民の生命を守るために必要な消費税の軽減あるいは非課税措置が実現するよう今後も継続して関係団体と連携していかねばなりません。

自然科学書協会は今年も販売・出版、著作・出版権、研修、広報、総務の各委員会ならびに税制・再販流通特別委員会の委員会を活性化させ、専門書に特有の問題に対して積極的に取り組んで参ります。具体的には、国内外で開催される各種のブックフェアにおける出版物展示ならびに全国主要書店との共催展示会の開催、出版物の複写・複製ならびに著作権制度や侵害問題への取組み、自然科学領域における一般読者向けの講演会やセミナーならびに読者が気軽に参加できる書店店頭におけるサイエンスカフェ等の企画と運営等を行って参ります。

自然科学情報に国境や地域性はありません。自然科学書協会はその会員を通じて世界の自然科学専門情報を日本国内に伝え、日本の自然科学専門情報を世界に伝えます。世界中の研究者が専門情報を適切に利用し合うことによって世界の科学知識は高まり、広まります。日本語という壁を乗り越え、自然科学領域の情報が世界的に利用される体制を作り上げなければなりません。自然科学書協会はその役割も果たしていきたいと思っております。

自然科学書協会は今年創立七〇周年を迎えます。この七〇年に自然科学書協会は日本の科学技術の発展と共に歩んできました。今後もその責任を自覚し、自然科学の専門情報が幅広く流通するために最大限の努力を重ねます。関係各位のご指導とご協力をお願い申し上げます。

●●自然科学書協会に期待すること●●

業界再編の中、求められる
出版社のチャネル政策

株式会社 文化通信社

常務取締役編集長 星野 渉



二〇一五年の出版業界で最大の話題は、なんといっても栗田出版販売の民事再生手続きの開始であったろう。自然科学書協会に加盟している出版社の皆さんにとっても、ショッキングな出来事だったのではないだろうか。

戦後の出版産業を支えてきた取次システムは、「委託配本制度」によって効率的に書籍、雑誌を流通させ、決済し、信用を担保する、他国に例を見ない出版システムである。このシステムで雑誌、文庫、コミックス、ムックなど大量販売が可能で低価格商品を流通させることで、日本は世界有数の出版大国となった。

しかし、取次システムを支えてきた収益性の高い雑誌市場が、電子メディアの影響によってこの二〇年で半分以上に縮小してしまったことで、取次各社は極めて厳しい経営状況に陥っている。そして二〇一四年には業界第三位の大阪屋が債

務超過に陥り、続いて第四位の栗田出版販売の破綻に到った。両社の構造は、規模の大小や複合度合いの違いこそあれ、基本的に大手中堅の区別なく、すべての総合取次に共通している。

日本のような取次システムが存在しない欧米では、出版社の集中度が高い。配本から物流、決済まで、出版取引に関わるほぼすべての機能を低コストで提供するシステムがないため、小規模出版社では書籍の取引・営業・流通が難しく、大手グループに集約されているためだ。

そういう国では書店も出版社との直接取引が多いため、資本力を持つ大手チェーンや大手ネット書店が売れ筋商品を抑えてしまう。小規模書店は共同仕入れ組織を作るなどして対抗しているが、アメリカでは書籍市場における独立系書店のシェアは一〇%以下だという。日本に小規模な出版社と書店が数多く存在し得たのは、取次システムのおかげだったと言って良い。

取次システムが従来のように機能しなくなるということは、日本の出版業界も、欧米のような姿になっていくことを意味しているのではないかと。

現に、紀伊國屋書店は村上春樹『職業としての小説家』（スウィッチ・パブリッシング）の初版一〇万部のうち九万部を買い切ったが、こうしたメジャーなタイトルを一書店が買い占めるなどということは、これまで日本の出版業界ではほとんどなかった現象だ。

このように流通、小売りの再編が進む

中、メーカーである出版社にはチャネル政策が求められる。だが自社の本を読者に届けてくれるのか、それぞれのチャネルにどのような役割が期待できるのか。そういうことを見極めながら、自社にとって大切なチャネルを支援していくという姿勢だ。

これまで日本の出版社は、多くの場合、チャネルはほぼ取次だけだった。医書など一部のジャンルを除くと、書店との直接取引が少なかったため、どの書店がどのような役割を果たしているのかが見えにくかった。

アメリカやドイツの出版社の話を聞くと、彼らはアマゾンや大手書店を重視しつつ、小規模な独立系書店も大切にしている。それは同情や判官贔屓からではなく、そうした独立系書店が自ら売るべき本を見つけ、売り伸ばしてくれるからだ。大手書店などはその結果、売れ始めた本を仕入れるだけなので、小規模書店をマージンで優遇したり、プロモーションコストを投じたりしているという。

もともと日本の取次システムも、明治から大正期に出版社が築いたものだ。デジタル化という流通の大変革期にあつてまさに今の出版社に、そうした役割が期待されていると思う。

フランクフルト・ブックフェア
報告

去る二〇一五年一〇月一四日（水）から一八日（日）までの五日間、フランク

フルト国際見本市会場にて「第六七回フランクフルト・ブックフェア」がテーマ国をインドネシアとして開催されました。当自然科学書協会は、例年と同じく日本共同ブースの展示コーナーに大学出版部協会とともに一七会員社から四四点の書籍を展示しました。今回も日本文学交流出版センター（J・L・i・t・センター）のご協力により、展示書籍の内容が事前

に英文で準備されJ・L・i・t・センター



フランクフルト・ブックフェアでの日本共同ブースの様子（写真：出版文化国際交流会）

のウェブサイトに掲載されるとともに、会場でも展示図書に添付されました。

今回のフェアは会場全体の再構成が行われ、八号館の使用がなくなり、六号館は英米圏の出展社、五号館には欧州諸国日本を含むアジア諸国は四号館の一階となりました。当協会の展示コーナーも昨年の六号館から四号館へと移動となりました。全体としてはコンパクトな構成となりましたが、出展社七四五社（前年七〇一三社）、入場者数二七五七九一人（前年二六九五三四人）と微増しており主催者は近年に成功したフェアと発表したそうです。

会場の再編により四号館に移動した自然科学書を扱う欧米の出版者もあり、コンパクトになったことあいまって、自然科学系の専門出版者としてはミーティング時の移動が減って便利になったと言えるかもしれません。

二〇一六年のフェアは一〇月一九日（水）から二三日（日）と発表され、オランダ／フランダースがテーマ国として取り上げられます。

（販売・出展委員会委員長 池田和博）

出版・印刷人の集い報告

一月一七日（火）に第一八回「出版・印刷人の集い」が、東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催、一般社団法人出版協会と一般社団法人自然科学書協会の協賛で開催されました。

二部構成となっており、第一部は一六時から日本出版会館四階大会議室におきまして、講師に株式会社文化通信社常務取締役編集長である星野 渉氏による「大阪屋、栗田問題からみる出版業界の今後へ進む集中化と取引制度の変化」と題した講演会が行われました。参加者は一四二名でした（主催者発表）。



星野 渉氏の講演（写真：東京都印刷工業組合出版メディア協議会）

第二部は、一八時から会場を日本出版クラブ会館に移動して懇親会となりました。主催者を代表して同協議会会長の山岡景仁氏（三美印刷）による開会の挨拶に始まり、協賛団体から当協会の金原優（医学書院）理事長の挨拶、出版協会の今村正樹（偕成社）理事長の乾杯の音頭で懇親会が始まり、途中恒例の豪華景品が当たる抽選会も行われ、和やかな雰囲気での交流の場となりました。

最後に同協議会監査特別委員の盛庄吉氏（慶昌堂印刷）の中締めで閉会となりました。

（広報委員長 吉野和造）

■第185期理事会・委員会開催一覧 （二〇一五年二月～二月）

●理事会

・二月三日（木） 一二月定例理事会／一六時～一七時二〇分 日本出版クラブ会館

●委員長会議

・一月一七日（火） 委員長会議／一三時三〇分～一五時 日本出版クラブ会館

●専門委員会

・一月一〇日（火） 研修委員会／一三時三〇分～一四時三〇分 文化産業信用組合

・一月一〇日（火） 販売・出展委員会／一六時～一七時 文化産業信用組合

・一月二五日（水） 著作・出版権委員会／一三時三〇分～一五時三〇分 日本出版クラブ会館

●その他

◆一月一七日（火） 出版・印刷人の集い／一六時～ 日本出版会館・日本出版クラブ会館

◆一月三日（木） 年末懇親会／一八時～ 日本出版クラブ会館

■事務局だより

＜代表者の氏名変更＞

●株式会社サイエンス社
代表者 旧：木下敏孝 新：森平敏孝
《住所変更：新住所のみ記載》

●株式会社 光生館

東京都文京区大塚三一 一一一
音羽ビル7階
※電話・ファックス番号は変更なし。

●理工図書株式会社

東京都千代田区一番町二七一一
理工図書ビル7階
※ビル階数の変更のみ。電話・ファックス番号は変更なし。

＜専門委員会委員の追加＞

●著作・出版権委員会

御園生晴彦（サイエンス社）・角谷裕通（北隆館）

●研修委員会

森平敏孝（サイエンス社）

●総務委員会

村上和夫（オーム社）・片岡一成（恒星社厚生閣）

編集後記

少し前の出来事です。朝食で時々ヨーグルトを食べるのですが、ヨーグルトのパックといえば、フタを剥がす際、フタ裏にヨーグルトが付着してしまうことがよくあります。泣く泣くそのまま捨てるか、あるいはスプーンですくったり、直接なめたりと、対応は人それぞれでしょう。ところが、ある朝出てきたヨーグルトはすべてフタに何も付着せず、きれいに開けることが出来たのです。

何故なんだと一人感動しておりましたが、勿論それは偶然的出来事では無かったのです。

国内の某企業が蓮の葉をヒントに、フタの表面に目に見えないほど細かな凹凸が無数にある素材に変更したことにより、成し得た結果だったのです。

それを知り、もうフタに付いたヨーグルトが食べられなくなるのではと少し残念な気もしましたが、それ以上に日本の技術力の高さと、食品メーカーの顧客目線な探究心に感銘を受けました。（K・Y）

年末会員集会報告

自然科学書協会の平成二七年度年末会員集会を去る二〇一五年十二月三日（木）、日本出版クラブ会館にて開催しましたので報告申し上げます。

定刻の一八時、金原理事長による開会の辞で年末会員集会の幕が開きました。理事長のご挨拶に続き、ご来賓を代表して、相賀昌宏様（一般社団法人日本書籍出版協会理事長）、安西浩和様（日本出版販売株式会社専務取締役）、川上浩明様（株式会社トーハン専務取締役）からご挨拶を賜りました。相賀様は「雑草は強いのか、弱いのか」という切り口



会場風景



安西浩和様



相賀昌宏様



金原 優 理事長



川上浩明様



筑紫恒男 副理事長



後藤 武 顧問

から、専門書出版の生命力に言及され、安西様は「専門書の販売が対前年一〇一%だった」との速報値を披露されました。また、川上様は「芥川賞の受賞者と直木賞の受賞者の寿命について」という話題から、専門書の商品特性について言及されました。ユーモアの中にも含蓄のあるご挨拶が印象に残っております。続いて司会者から、ご来賓全員をご紹介させていただきます、出席者全員による盛大な拍手をもって謝意を表しました。

例年ではここで乾杯に移りますが、今年「功労者表彰」を行いました。功労者には、山本格様（株式会社培風館代表取締役社長）、及川清様（株式会社養賢堂代表取締役社長、大谷健美様（文化産業信用組合相談役）が選ばれ、規程に基づき、金原理事長より表彰状と金一封が贈られました。これに対し、功労者を代表して及川清様からご挨拶をいただきました。



功労者表彰 山本 格様



功労者表彰 及川 清様



功労者表彰 大谷健美様

今回は会場を「日本出版クラブ会館」に移したため、昨年までの会場より手狭となり、その解決策として取り入れたのが、着席と立食を併用する変則スタイルでした。故に、例年と同様にお楽しみいただけるか否か、準備段階では案じましたが、皆様のご協力により、無用の事となりました。

宴たけなわの一九時四五分、名残はつきませんでしたが、筑紫恒男副理事長の中締めをもって宴を締めさせていただきました。

最後になりましたが、様々なアイデアと気配りで年末会員集会をバックアップして下さった日本出版クラブ会館の皆様、この紙面をお借りして御礼申し上げます。

（総務委員長 飯塚尚彦）